

目標達成計画

作成日: 平成22年7月16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	なのはな理念が毎年の職員体制が変更になっても、変わらず同じ状態である。理念について、新しい職員メンバーで、再度、話し合う事は、なかった。	毎年、新年度にあたり、職員間で理念の話し合いをし、その年の理念を作ることで、互いに共有し合えることを目標とする。	開所時から6年目のなのはなの利用者の変化に合わせた取り組み案を出し合い、理念をまとめていく。	2ヶ月
2	4 10 11	昨年度までの取り組みとしては、項目の4, 10, 11の3項目は、一つひとつとしての効果は、あった。しかし、全体のまとまりとしては、つかまれておらず、利用者、家族、地域、職員の全体での交流が必要と思われる。	なのはなというグループホームを通して、その周りを囲む人たちが互いに思いを共有しあい、一体になることが目標。	年間で今まで行われていた地域会議、家族会、職員部会を一つの会にまとめ、その中に中心である利用者を交えて、大きな交流会とする。誰もが会の一員となり、互いの意見の交換の場となるよう、進めていく。2010年は、9, 11, 2月の3回予定。	2ヶ月
3	20 23 26	それぞれの利用者、家族には、様々な思いがあり、家族の都合もある。利用者の思いを聞く中、家族が受け入れることが困難なこともあり、逆の場合もある。	それぞれの思いに対して、間に入る職員がじっくりと話が出来る時間を作りあい、よき相談役となることが目標。	家族との話し合う時間を作っていくこと。まずは、利用者の様子を伝えていきながら、家族の思いを聞いていくことが大切。話し合う時間を毎回と繰り返していくことで、共有し合う内容が互いに理解し合い、今後の展開がよい方向へ向かうように配慮していく。	6ヶ月
4	33	ターミナルを昨年、初めて経験した。新年度で、4月に職員が交代したばかりの時期、新しい職員が本当に納得をして行なえたか確認できず6月の看取りとなった。早い時期からの話し合いを知る職員は、半分以下であった。	早い段階から同じ思いを共有し合う職員間を作っていくこと、そして、ターミナルという大切な支援を現在の利用者の家族に理解してもらえ同意書の作成が必要であることから、なのはなとしての同意書の作成をし、理解をお願いしていく。	勤務体系を2, 3年は続けていける体制を作り、なのはな利用者家族の様子全体をよく理解できる職員作りをしていくことが大切。その上で、同意書を作り、利用者家族へ、なのはなのターミナルに対しての運営への理解をしてもらう。	2ヶ月
5	35	特に毎夜が不安を感じながら勤務する職員の姿がある。避難訓練を今年は、回数をふやしていく目標を方針に掲げているが、やはり、不安は大きい。	地域との取り組みが大きな鍵となる。目標は、「地域の力を借りる」。	上記の目標とした「地域会議・家族会」を多いに利用し、意見交換の場とし、どのように地域の力を借りていくか、話し合いを進めていく。	2ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。